

球磨病院が急性期病床 6 床を必要とする理由

1. 病床機能別病床利用率の推移（過去 3 年間）

（1）平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

病床機能	病床数	1 日平均 在院 患者数	新規 入院 患者数	退院 患者数	転入（転 棟含む） 患者数	転出（転 棟含む） 患者数	病床 利用率
急性期	34	32.2	715	325	0	396	94.6%
回復期	45	42.4	3	124	151	30	94.1%
慢性期	75	71.2	12	288	328	53	94.9%

（2）平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

病床機能	病床数	1 日平均 在院 患者数	新規 入院 患者数	退院 患者数	転入（転 棟含む） 患者数	転出（転 棟含む） 患者数	病床 利用率
急性期	34	32.1	666	269	53	365	94.4%
回復期	45	43.9	32	291	282	36	97.6%
慢性期	75	74.0	36	147	130	26	98.7%

（3）平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

病床機能	病床数	1 日平均 在院 患者数	新規 入院 患者数	退院 患者数	転入（転 棟含む） 患者数	転出（転 棟含む） 患者数	病床 利用率
急性期	34	32.3	620	291	2	350	94.8%
回復期	45	42.6	10	287	264	13	94.5%
慢性期	75	73.3	21	88	82	13	97.6%

2. 救急患者受入件数の推移（過去 3 年間）

年度	救急患者受入件数合計	内、入院患者数計
平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	132	65
平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月	119	59
平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月	159	60

3. 急性期病床が必要な理由

- （1）球磨病院の病床は、急性期・回復期・慢性期のいずれも、利用率の平均が 95% 前後であり、月によって 100% を超えることもある。
- （2）近年、脳神経外科・整形外科の専門医を常勤で迎えたが、特に入院加療を要する整形外科患者が激増したことにより、更に急性期病床の不足が著しくなった。

- (3) よって、現在の急性期病床 34 床のみでの運営において、効率的な入院管理を行なうことは非常に困難な状況である。
- (4) また、入院を要する救急患者を自院で受け入れできない場合も発生している。
- (5) 現状を打破し、急性期を中心とした健全な運営を実施し、地域医療への貢献を果たすため、現在稼働できていない 6 床を、急性期病床として使用することを切望するものである。

以上